

[3] 日南市小体連

(学校数15校 児童数2,506人)

I 年間事業

期 日	曜	事 業 名	主 な 内 容	会 場
5月12日	水	南那珂地区教科等研究会 (中止)	事後研究	油津中学校
6月4日	金	第1回理事会	役員選出、年間活動計画審議 水泳記録会実施の検討	飫肥小学校
7月27日	火	第2回理事会	陸上記録会実施の検討	飫肥小学校
9月24日	金	第3回理事会(中止)	陸上記録会計画案検討	飫肥小学校
11月11日	木	南那珂地区教科等研究会	役員発表、事後研究会	油津中学校
~11月22日		陸上記録会		各小学校
11月25日	木	第4回理事会	陸上記録会記録整理	飫肥小学校
2月24日	木	第5回理事会・授業研究会	研究紀要作成 年間反省	吾田東小学校

II 事業部のあゆみ

1 水泳記録会

- 新型コロナウイルス症感染拡大のため、実施できなかった。

2 陸上記録会

- (1) 大会名 日南市小学校陸上教室
- (2) 期日 令和3年11月22日(月)までに記録をとり、11月25日(木)の理事会で認定を行う。
- (3) 会場 日南市各小学校
- (4) 参加者 日南市内小学校6年生児童。学校規模により、5年生の参加を認める。ただし、リレーに参加する選手のトラック競技のみとする。
- (5) 種目 ○ 種目
100m走 50mハードル走 400mリレー 走り高跳び 走り幅跳び
持久走(女子800m、男子1000m) ソフトボール投げ
- (6) 競技方法 ○ 選手種目については、タイムレースとする。
○ 1人が出場できるのは、2種目+リレーとする。
○ スパイクの使用は禁止する。
○ その他細部については、日南市小学校体育連盟による競技規則を適用する。
○ 100mの直線をとることができない学校では、カーブを用いて測定する。
○ 800m、1000m及び、400mリレーの距離を正確にとれない施設では、無理に記録を測定する必要はない。ただし、学習の一環として記録を測定することを勧める。
- (7) 表彰 ○ 陸上記録会参加児童すべてに記録証を渡す。
- (8) 反省
○ 運動場が200mで作られていない学校もあったため、同じ条件で記録測定をすることが難しかった。
○ 種目によっては(ボール投げ、走り高跳び、走り幅跳び)、体力テスト結果や授業の中で計測した記録を上げるなど、年間指導計画をもとに準備・実施した学校もある。
○ 複式学級を有する学校、小規模校では職員数に限りがあり、記録向上や記録計測が難しい面もある。
○ 学校によって、計測するための用具が足りないこともあった。
- (9) その他
○ 年度当初から、どこで記録が測定できるか前もって計画しておくことで、記録会にかかる負担を減らすことができるため、今年度中に年間指導計画を見直したり、教育課程に計画したりする必要がある。
○ 記録測定に必要な用具、器具等を小体連で購入したり、学校間で借用したりしながら実施する必要がある。各学校の用具器具の有無、数などを把握し、一覧にまとめて活用していきたい。

III 研究部のあゆみ

1 研究主題

運動の楽しさやできる喜びを味わい、運動に進んで関わる児童の育成
～小・中連携による主体的・対話的で深い学びのある授業の工夫改善をとおして～

2 研究の構想

体育科における課題

- ① 習得した知識及び技能を活用して課題解決することができない。
- ② 学習したことを相手に分かりやすく伝えることができない。
- ③ 運動する子どもとそうでない子どもの二極化傾向に歯止めがかからない。
- ④ 子どもの体力低下傾向に歯止めがかかったものの、依然として低い。

新学習指導要領 体育科の目標

体育科において育成を目指す資質・能力

- 各種の運動が有する特性や魅力に応じた知識や技能を身に付ける。 【知識・技能】
- 自己の能力に適した課題をもち、その解決に向けて思考し、判断するとともに、他者に伝える力を養う。 【思考力・判断力・表現力】
- 運動の楽しさや喜びを味わい、明るく楽しい生活を営むための態度を養う。 【学びに向かう力・人間性等】

研究仮説

日南市内の小・中学校が連携し、ネット型ゲームの学習における主体的・対話的で深い学びの在り方を明確化し、授業改善の工夫を行えば、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって健康の保持増進や体力向上に取り組む児童が育つであろう。

目指す児童像

体力の向上について、心身ともに成長の著しい小学校時期を踏まえ、「体づくり運動」の学習を通じて、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、様々な基本的な体の動きを身に付けるようにするとともに、健康や体力の状況に応じて体力を高める必要性を認識できるようにする。

研究内容

- 1 ネット型ゲームにおける主体的・対話的で深い学びの在り方
 - 運動のポイントを意識できるように指導方法を工夫し、子どもたちの必要な知識及び技能の習得を図る。対話のために教師が手本となる動作を提示し、発言を促したり、気付いていない視点を提示したりすることで子どもたち同士で高め合えるようにする。また、小・中学校で連携を図り、学びに必要な指導の在り方を追究し、学習環境を積極的に設定していく。
- 2 授業改善の工夫
 - 課題を解決するために押さえておくべき体育科授業のポイント
 - ① 安全面への配慮が十分である。 ② 運動量が確保されている。
 - ③ できた・わかったなど技術面で向上が見られる。 ④ 仲間との関わり・協力が見られる。
 - 運動の特性や魅力を大切にしたカリキュラムづくりや教材の開発
 - 関わりを豊かにし、思考を深める一層の言語活動の充実

※ 次年度に向けて

- ネット型ゲームの授業研究 ○ 南那珂教科等研究会での授業発表
- 令和5年度学体研究に向けての串間市小体連との連携

3 研究の実際

- (1) 授業者 祝園 智之教諭
- (2) 単元名 ネット型運動
- (3) 期日 2月24日(木) 吾田東小学校で実施予定。